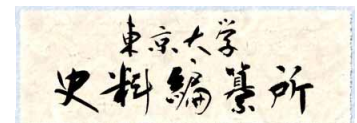


史料のデジタルアーカイブとその課題

第二回・知のデジタルアーカイブに関する研究会

2011/02/22

東京大学史料編纂所・大内英範



史料編纂所における「史料のアーカイブ」

▶ 史料編纂所

- ▶ 国の内外に残されている古代から明治維新に至る日本の歴史に関係する史料を蒐集、研究するとともに、その成果をふまえて、日本史研究の基礎となる史料集を編纂・出版する研究所(本所webページより)
 - ▶ 原本史料を多数所蔵
 - ▶ 国内外での調査・蒐集(採訪)
 - 影写・謄写・模写・写真などの方法で、文書・日記・典籍・絵画などの膨大な複製史料を作成
 - ▶ 本所の図書室やWebサイトにおいて公開
- ▶ 2009年6月、文部科学大臣によって「日本史史料の研究資源化に関する研究拠点」に認定

現在の取り組み

- ▶ 「採訪マイクロ」のデジタル化と公開
 - ▶ 必然的な流れ
 - ▶ マイクロフィルムの劣化(デュープフィルムは作っているが...)
 - ▶ CH印画紙の生産中止
 - ▶ 約500万コマ(うち海外関係120万コマ)
 - ▶ 基盤S「史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オントロジー構築の研究」(2008年度から)
 - ▶ デジタル化
 - 今年度までで約200万コマ
 - ▶ メタデータの付与
 - ▶ 検索システム構築

デジタル化における問題点

▶ メタデータの細かさ、点数の多さ

- ▶ メタデータ(所蔵資料目録)(管理項目も含む)
 - ▶ 書目・・・54
 - ▶ 冊・・・36
 - ▶ 細目・・・27
- ▶ 1点モノが多い

▶ 画像のフォーマット、精細さ

- ▶ JPEG
- ▶ 400PPI

デジタル史料公開における問題点

- ▶ 本所所蔵史料
- ▶ 採訪史料を中心とする“所外”史料
 - ▶ 採訪先への確認作業
 - ▶ 史料の所在が変わっていることも
 - ▶ 採訪先がないことも
 - ▶ 採訪先によって要望が微妙に異なることも
 - ▶ 住所の公開はしたくない
 - ▶ 閲覧室での閲覧はよいがweb公開はダメ
 - ▶ 史料の所有そのものを知られたくない ...etc...
- ▶ Web閲覧、ダウンロード、印刷などの段階別に権限の制御が望ましい

「史料館・文書館」におけるデジタルアーカイブ

- ▶ 特に地方での事例は少ないか→カネ・ノウハウ(ヒト)
- ▶ 史料編纂所のDB利用もあり得る
 - ▶ 県史・市史編さんによって収集された史料
 - ▶ 地方の文書館等の史料